

# 国公立戦 部便り

## 目次

### 1. 国公立戦 講評

- 1.1 監督より
- 1.2 主将・女子主将より

### 2. 国公立戦 試合経過

### 3. 選手の言葉

### 4. 試合結果

### 5. 自己記録更新者一覧

### 6. 2018年度部内五傑

### 7. 2018年度東大記録更新者一覧

### 8. 主務より

## 1. 国公立戦 講評

### 1.1 監督より

#### 監督・藤田靖浩

今年度の国公立戦は前々週の関東インカレ出場者のエントリーが少なかったこともあり男子は総合3位と非常に厳しい結果となりました。200メートルでの小嶋の大幅な自己記録や棒高跳での三宅の大会新記録等の好結果もありましたが対校戦としては惨敗です。

試合に望む姿勢が甘かったことが全ての要因です。現状のままでは七大戦の結果も危機的なものになりかねませんので、一同大いに反省し、この2ヶ月で立て直しを図って行きたいと思います。

### 1.2 主将・女子主将より

#### 主将・近藤秀一

OB・OGの皆さま、大変暑い中会場に足を運んでくださりありがとうございました。今回の国公立戦は、本命である七大戦に向けた布石の位置づけで臨みました。関カレ出場者は休養とトレーニング期間に充てる者が多かったため、中堅選手が多く出場することになりました。

結果は3位でした。短距離、投擲種目では多くのPBが出てトレーニング効果を確認することができましたが、そもそもの実力不足をより痛感させられました。実力や安定感でエースと中堅の差が大きいことが課題です。練習や日常生活での「当たり前のレベル」を強い選手基準に引き上げていく必要があります。状況を打開しようとパート全体で新たな取り組みをしているところも見られるので今後に期待してください。

七大戦までまだ1ヶ月半期間があるので十分にレベルアップできるようトレーニングに打ち込んでいきます。また、今回と四大戦の結果を踏まえて七大戦で得点を最大化できるオーダーを慎重に見定めていきます。これからもご支援ご声援の程、よろしくお願い致します。

#### 女子主将・高石涼香

OB・OGの皆様におかれましては、日頃より温かなご声援のほど誠に感謝しております。

今回国公立戦への出場は、女子パートとしましては高石(4)・内山(3)の2名となりました。各部員の長期的なス

パンでの練習を考えますとなかなか時期として照準を合わせる事が難しかったことが原因です。

内山は足の疲労骨折に苦しめられる時期が続きましたが、その中でも工夫して冬練をこなし、今回の100mの予選では自己ベストを更新するところまで持ってきました。跳躍種目に関して自己ベストに近い水準の記録は出ており、今後の記録の伸びに大きく期待がかかります。また、高石も連戦の疲労こそ見えてましたが、七大戦に臨むにあたり400mや3000mなどのサブ種目を走る上で課題を明確にできたレースとなりました。

女子パートも七大戦を今シーズン一番の目標とする大会として据える上では、そろそろこの時期から各部員が試合に出て記録を出していくことが必要になります。対校戦へのエントリー自体は人数こそ少なかったものの、女子パート全体を概観しますとやっと今後記録会に出て結果を出すというフェーズに入りました。中距離パートに所属している1年生2人も6月末の記録会にエントリーしています。これから七大戦にかけて、対校戦や記録会などでの女子部員の記録にもご注目いただくと幸いです。

## 2. 国公立戦 試合経過

### ◎トラック種目

#### 9:00 男子 1500m 決勝

近藤(4年)、油井(4年)、柘村(2年)の出演。天候は快晴で気温も高く、朝一番の競技ともあって、記録とともに得点を取りその後のレースに流れを持って来ることが期待された。近藤は、自己ベストでは東工大の河合選手に劣るものの、目標は優勝。油井と柘村の二人はPBの更新と得点を目指しレースに臨んだ。

レースは16人でスタート。最初の100mで河合選手、近藤を含む6人の先頭グループが早くも形成される。油井、柘村は7位集団の後方に位置。300m地点で河合選手が先頭に立ち、近藤が直後で追う展開に。400mの通過は、近藤が1'01、油井と柘村が1'05。先頭集団はペースがあまり下がらず、縦に伸びる一方で、7位集団は固まったままレースが進んでいく。800mの通過は近藤が2'05、油井と柘村が2'13。1000m地点で近藤が河合選手の前に出て先頭に立ち、ラスト一周に突入。1200mの通

過は近藤が3'09、油井が3'21、柘村が3'22。最後の100mで河合選手がスパートをかけ再び前に立ち、ゴール直前まで河合選手がリードしていたが、近藤が最後まで食らいつき、フィニッシュはどちらが先か目視できず。結果は近藤が0"01差で河合選手をかわして1位に。油井と柘村も最後の一周はラップを上げ、追い上げを見せたものの、目標の8位以内には入ることはできなかった。記録は近藤が3'54"19で優勝、油井が4'09"46で10位、柘村が4'12"70で13位だった。

近藤が積極的に前に出て勝負をしかけ、最後の100mも主将の意地で粘り1位で8点を獲得したものの、油井と柘村は得点を獲得することができず、1500mの合計得点では他大に先手を取られてしまう結果となった。近藤に続く2番手以降の選手の育成が今後の四大戦、七大戦に向けての課題となった。

#### 9:15 男子 400m 予選

1組3レーンに岩崎(2年)、2組3レーンに坂口(4年)、3組8レーンに柏木(2年)の出演。3組あり各組2着までと以降記録の良い2人が決勝に進出できる。天気は晴れで気温も高く、好記録が見込めるコンディションで競技が開始した。

1組目に岩崎のレース。4レーンの48秒前半の選手、5レーンの49秒前半の選手にリードを取られてしまうものの、落ち着いて最後まで必死に食らいつき、50"83の自己ベストで3着。タイムで拾われ目標であった決勝進出となった。

2組目に坂口のレース。300m付近までは、4番手だったが、粘りを見せて残り100mで1人追い越し、50"25の自己ベストで3着。タイムで拾われ決勝進出となった。

3組目に柏木のレース。100m付近まで、他の選手と引けを取らなかったものの、徐々にペースを落とし、200m付近で5レーン学芸大の選手に並ばれる。その後も差は縮まることなく、51"63の5着でゴール。目標の決勝進出はならなかったものの、今シーズン4度目となるUBの更新となった。

#### 9:30 男子 100m 予選

阿久津(3年)、木崎(2年)、岸田(2年)の3名が出演した。決勝進出の条件は、4組1着+4。昼前でありながら、気

温は 30℃近く、記録の出やすいコンディションであった。

1組7レーンに岸田の出場。最初のスタートでは他大選手のフライングがあり、仕切り直しとなるが、2回目では落ち着いて出ることができた。だが、30m以降から先頭の選手たちに離され、結果は11"29(+1.4)でPBを更新したものの5着であった。

2組3レーンに木崎の出場。7人出場のはずが、3人の欠場者が出て4人でのレースとなり1着での決勝進出の期待も高まった。レースでは、得意とする前半の走りにより、60mまでをトップに躍り出るも、6レーンの一橋大の選手が伸びてきて、80mを過ぎて抜かれてしまう。結果は、11"06(+2.5)の2着であった。

4組の5レーンに阿久津の出場。落ち着いたスタートを決め、序盤の時点では3番目に位置していた。そこからの順位争いは変わることなく、10"93(+0.2)の3着でフィニッシュ。3着で決勝は難しいかと思われたが、+4の2番手に入ることができ、決勝進出を決めた。

予選が終了し、残念ながら、木崎と岸田は予選落ち。決勝進出を決めたのは阿久津のみとなった。

### 10:15 女子 100m 予選

1組5レーンに内山(3年)の出場。気温が高くホームストレートは追い風で絶好のコンディションだった。

スタートで良い反応を見せた内山は順調に加速していき、他の選手を突き放していく。最後まで先頭を譲ることなく1着でゴール。タイムは12"64で、この時の風は追い風1.6mだった。

PBを更新した内山は着順で決勝進出を決めた。

### 10:40 男子 110mH タイムレース決勝

1組3レーンに松田(3年)、1組6レーンに本田(2年)の出場。両選手共に専門は400mHであり、専門外の出場となったが、15秒台、そして上位入賞を狙いたい。今年は比較的暑かったものの、追い風が吹き、かなり良いグラウンドコンディションであった。

レース序盤は4、5レーンの東工大の選手が先行し、それを追いかける形となったが、中盤で本田は5レーンの選手を抜き、ゴール直前で4レーンの選手を何とかかわし、15"80の1着でフィニッシュ。松田は前半よく食

らいついていたものの、後半少し離され、本田、東工大の2選手に続き、16"17の4着でフィニッシュ。この時風は+1.5mだった。

結果として本田は総合6位で3点獲得、松田は惜しくも9位で入賞は叶わなかった。記録については本田が15"80で大学ベストを更新、松田はほぼ資格記録通りの16"17であった。上位入賞は果たせなかったが、本田が大学ベストを更新するなどの収穫もあった。今回出場した兩名には次の七大戦での活躍を大いに期待したい。

### 10:55 男子 200m 予選

1組1レーンに小嶋(4年)の出場。レース前には皆が驚くような走りを見せると自信を見せた。内側からのスタートであったが、曲走路でスムーズにスピードに乗って走り、22"21(+0.1)の2着でゴール。着順で決勝進出を決めた。

2組6レーンに伊藤(3年)の出場。序盤からトップの2名に差を広げられていく苦しい展開であったが、ホームストレートに入ってから横並びの選手に競り勝つ力走を見せ、22"68(+1.2)の3着でゴールしたが、惜しくも+αでの決勝進出はならなかった。

3組8レーンに近藤(2年)の出場。いいコンディションの中、前半から積極的なレースで先頭に食らいついていたものの、ホームストレートで徐々に差を広げられ、22"70(+1.0)の5着でゴールし、PBを大きく更新した。レース後本人は「力んで後半バテてしまった。まだまだ伸びると思う。」と話していた。レース展開の修正によりさらなるベスト更新に期待したい。

### 11:15 男子 800m 予選

1組8レーンに八ツ本(3年)の出場。勢いよくスタートした八ツ本は、ブレイクの際、他選手を確認しながらややペースを緩め、2番手につける。400mを61"3で通過すると、ペースを上げて先頭に立った一橋大の選手についていく。しかし、600m通過と同時に後ろについていた東工大の選手にかわされ、八ツ本のペースは落ちていく。前2人との差が開き、後ろとの差が急激に縮まる中、八ツ本は懸命の走りを見せ2'02"55の3着でゴールした。

2組3レーンに伊藤(4年)の出場。落ち着いたスタートを見せ、ブレイク後は最後尾につける。400mを59"9で

通過し、この時点で先頭とは約1秒の差。徐々に集団が縦に伸びていく中、バックストレートで1人かわして5番手に浮上。しかし、600m通過後は苦しい表情となり、ペースが上がらない。ホームストレートに入りもう1人かわして4番手に浮上するも、先頭集団の3人との差は開ききっており、そのまま2'02"42の4着でゴールした。

3組5レーンに小野(3年)の出場。ブレイク後、2、3番手あたりにつけたまま200mを通過。その後は2番手に落ち着き、リラックスした走りで400mを60"2で通過。500m付近で集団のペースが上がるも、落ち着いた走りで2番手を守り続けていた小野は、残り100mでギアを切り替え一気に先頭に浮上した。後続との差をみるみるうちに広げ、最後の30mは流しながら、余裕の走りで1'59"92の2着で予選を通過した。決勝への期待を膨らませるレースとなった。

#### **11:40 男子 5000mW 決勝**

根津(3年)、保田(1年)、松原(1年)の出場。記録上は学芸大の2人、一橋大の2人が抜けており、厳しい展開のレースが予想された。気温は30度を超え蒸し暑い中での厳しい条件のレースとなった。対抗男子の出場者は8人であった。

スタート直後から集団は学芸大学、一橋大学の力の抜けた4選手の先頭集団と5位集団に分かれ、3人とも5位集団に着く。根津は必死に食らいつくも、800m手前で5位集団から離され始め、1000mを5'01で通過。単独8番手で粘るも立て続けに警告を取られ、1800mで失格となった。5位集団は先頭が目まぐるしく変わりながら4'51-5'03で2000mを通過。2200m付近で松原も集団から離れ、5位集団は保田と東工大の選手の2人になる。保田は5'07のラップで3000mを通過し、3400m付近で5番手の東工大の選手から離れて一度は6番手に落ちるも、すぐに追いつき、4000m手前でスパートをかけ単独5番手になり、5'05のラップで4000mを通過。ゴール直前で足をつりながらも25'05"47の5位でゴール。松原は、後半の3000mが5'21-5'37-5'18と離れてからもなんとか堪え、26'11"35の自己ベストで7位、合計6点の獲得となった。

1年生の2人は初対抗ながら粘りのレースを見せ、今後に期待がかかるも、やはり現状では学芸大、一橋大の

選手、また関東インカレに出場した3人との力の差は大きく、今後の対校戦に向けてさらなるレベルアップを目指していきたい。また、失格者も出たことからフォームの確認をこれまで以上に徹底していきたい。

#### **12:20 男子 100m 決勝**

8レーンに阿久津(3年)の出場。コンディションは32℃と、だいぶ気温が高くなっていた。

レースは、フライングもなく1回でスタートした。阿久津は良い形でスタートを決められたように思われたが、50m通過時点では3人が抜き出ている、残りの5人はほぼ横並びとなっており、阿久津は横並びの一員となっていた。結局、阿久津は5位でフィニッシュ。フィニッシュタイムは11"05(-0.5)であった。決勝進出者をPB順で並べると阿久津は5番手となるので、結果は実力通りのものであったと言えるだろう。

今回の対校男子100mでは、「主力選手の一部は温存しつつ、主力にはあと一歩及ばないという選手にも対校戦を経験させ、その上で得点も狙っていく」とのことで上記の3人が選ばれた。2年生の2人はPBもしくはそれに近いタイムを出すこともでき、個人としてはある程度満足いく結果となったかもしれない。だが、対校としては、決勝進出は阿久津のみで、計4点しか獲得できなかったという有様だ。現時点での東大は、強いチームだと言えるレベルにはいない。だからこそ、主力選手を温存しつつ勝つなどという考えの甘さを今回の対校戦を通して痛感させられたことだろう。一先ずは、下の選手による突き上げがあることで、エース層の選手も含めた短距離パート全員での実力の向上を目指すべきだろう。

#### **12:30 女子 100m 決勝**

6レーンに内山(3年)の出場。予選通過タイムは全体の3番目であり、上位入賞に期待がかかる。

予選と同様良いスタートを見せたが、少しずつ5レーンの首都大、4レーンの学芸大の選手に離されていく。中盤はそのままの順位を保ち、終盤、7レーンの農工大の選手の猛迫を受けるもなんとか逃げ切り3位でゴール、6点獲得。タイムは12"79で、この時の風は追い風0.9mであった。

内山は今回の試合に対し、怪我をしていた冬を越えて

完全復活したことを確認できるような記録を出したいと意気込んでいた。見事 PB を更新し目標を達成した内山には七大戦でのさらなる活躍に期待したい。

### **12:35 男子 400m 決勝**

1 レーンに岩崎(2年)、2 レーンに坂口(4年)の出場。気温は 30 度を超えていた。持ちタイムでは 7,8 番手ではあるものの、予選で自己ベストを更新しており、波に乗って上位に食い込み、少しでも多く得点することが期待された。

号砲とともに勢いよく選手が駆け出し、前半から各選手が積極的に飛ばしていく展開で、他大学の選手に遅れを取ってしまう。残り 60m 付近まで、坂口が 7 番手、岩崎が 8 番手と苦しい展開。しかし、坂口は 800m 専門ということもあり、ここからラスト、意地を見せて 2 人追い越し、50"36 の 5 位でゴール。また、岩崎も粘りを見せ、51"15 の 7 位でゴール。合計 6 点を獲得し、各人とも現状の自分の力を出し切りチームに貢献することが出来た。

### **12:40 女子 400m 決勝**

6 レーンに高石(4年)の出場。先日の関東インカレで 800m の自己ベストを更新しており、この種目でも自己ベストの更新が期待された。

号砲後、高石は落ち着いた入りを見せる。一つ内側のレーンの選手がスタート直後から飛ばしており 100m を過ぎたあたりで並ばれるが、高石もこの辺りからスピードに乗って、その選手に並走していく形になる。高石はホームストレートに入る直前までその選手に食らいつき、その他の選手を引き離したが、そこから徐々に前と離れてしまう。最後は 59"50 の 2 位でゴールし 7 点を獲得した。

専門ではない種目ながら、2 位に入り地力の強さを見せつけたが、タイムは自己ベストに届かず物足りないものとなった。本人もこのような距離を上手く走れないことが 800m でも足かせになっていると述べているので、今後はこのような距離への対応にも期待したい。

### **13:35 男子 200m 決勝**

7 レーンに小嶋(4年)の出場。普段は 200m にあまり出場しない小嶋だが、高校時代に都大会チャンピオンに輝いた実力者であり、高順位が期待できる。レースが始まると、良いスタートからレースを引っ張り、力走を見せたが、最後に最外 8 レーンの選手にかわされ 21"84(+0.7) の 4 位でゴールし 5 点を獲得したが、惜しくも表彰台には届かなかった。

PB を更新する素晴らしい走りを見せたが、大会後の集合時の監督やコーチの指摘にもあったように、3 位に入れなかった勝負弱さもあった。七大戦までにそこを改善し、本番で大活躍してくれることを期待したい。

### **13:50 男子 400mH タイムレース決勝**

対校男子 400mH は 2 組のタイムレース決勝で行われた。1 組 4 レーンに松田(3年)の出場。本田(2年)もエントリーしていたが、先刻の対校 110mH で左脚のハムストリングスを痛め、棄権することになった。

1 組目、4 レーンの松田と 5 レーンの東工大の選手が順調にスタートを決め、この 2 人で一騎打ちをする試合展開となった。松田はハードルで詰まることなくうまく流れに乗っていきレースは後半へ。暑いコンディションの中、周りの選手たちは徐々に減速していくが、松田はペースを維持して先頭に躍り出る。ホームストレートでも気合の走りを見せ、55"66 の 1 着でゴール。全体では 4 位となり 5 点獲得することができた。

目標としていた関カレ標準切りには惜しくも届かなかったが、安定したハードリングと持ち味のロングスプリントから、目標の達成はそう遠くないだろう。今後の活躍に期待したい。

### **14:15 男子 800m 決勝**

8 レーン小野(3年)の出場。持ちタイムでも上位の 2 人を含む東工大の 3 選手と、どのようなレースを展開するのが注目されていた。時刻は 14 時過ぎと、一日の内でも最も暑い時間帯で気温は 30℃を超えていた。

一番外の 8 レーンからのスタート。ブレイクの後、東工大の選手 2 人に次ぐ 3 番手と位置取りに成功する。200m の通過は 29 秒、400m の通過は 58 秒であった。ここまでは集団内に大きな変化は起こらなかった。残り

300m 過ぎでペースを上げ一時先頭に出るも、カーブで東工大の1人に抜き返されてしまった。直線に入ってから、更にもう1人に外側から抜かれてしまう。先に抜かれた東工大の選手を抜き返すものの、5番手だった東工大の選手の猛追もあり2位争いは接戦となった。最後の10mではフォームが崩れてしまい、スピードを上げた東工大の2選手の追い上げを許してしまった。

結果は1'56"71の4位で5点獲得と、東工大に完敗という形だった。中距離チームの総力の向上が求められていると言ってよいだろう。

### **14:35 男子4×100mR タイムレース決勝**

竹井(D3年)-阿久津(3年)-木崎(2年)-岸田(2年)の走順で、第2組6レーンに出場。先日の関東インカレから2走を除く3名のメンバーを変更したオーダーで高得点を狙う。

気温が30度を大きく超える暑い気候の中、号砲が鳴り5校が一斉にスタート。1走の竹井が素晴らしい走りを見せ、外側7レーンの首都大との差を縮めていく。スムーズなバトンパスで2走の阿久津へ。同日の100m予選・決勝に続く本日3本目のレースの中、ラップ9秒台の力走を見せ、3走の木崎へバトンが渡った。内側5レーンの東工大、3レーンの一橋大の追い上げを受けながらも落ち着いた走りを見せ4走の岸田へバトンパス。ここで東工大、一橋大の先行を許してしまう。岸田は同日の100m予選で11"29(+1.4)のPBを記録し好調である。東工大、一橋大を猛追するも力及ばず、3着でのフィニッシュ。記録は42"06で全体3位、6点獲得となった。

今大会では関東インカレからオーダーを大きく変え、主力組だけでなく中堅層も起用する形となった。七大戦でより多くの得点を獲得するためには、主力組だけでなく中堅層が実力を大きくあげることが不可欠となってくる。今大会の4×100mRに出場した選手が、今以上に実力をつけて七大戦で活躍する姿を期待したい。

### **14:50 男子5000m 決勝**

栗山(3年)、遠藤(3年)、松本(2年)の出場。遠藤・松本の2人は対校選手としての経験が浅く、長距離パート中堅層の飛躍が期待された。

日差しが非常に強く体感では33℃程あるコンディションの中レースがスタート。スローペースでまとまった集団となる中、序盤から遠藤が先頭に出て集団を引っ張り他2人はその少し後方を走る形となり、1000mを3人とも3'07で通過。尚もその展開は変わらず2000mを3人とも1000mのラップ3'12と少しペースダウンしつつ通過。その後栗山・松本は集団前方で順調に刻む一方、遠藤は中盤以降大きくペースを落とし集団から離されていき、3000mを前2人は1000mのラップ3'13、遠藤は3'17で通過する。以降も集団とともに栗山・松本は少しペースを上げラップ3'07で、遠藤は粘るもののラップ3'19でそれぞれ4000mを通過。終盤4500m辺りからはラップが2'50台前半まで上がるスパート勝負となる中、松本は食らいつき15'36"87(ラップ2'57)の6位でフィニッシュ。最後ついていけなかった栗山は15'46"07(ラップ3'06)の8位、遠藤は16'21"73(ラップ3'24)の15位で4点獲得という結果となった。

順位としては少々物足りない結果となってしまったが、今回出場した松本や遠藤を中心とした普段対校枠に入っていない層のジャンプアップを期待したい。

### **15:10 女子3000m 決勝**

高石(4年)の出場。2週間前の関東インカレで800mのP.B.を塗り替えた高石であるが、対校400mの2時間30分後で、持ちタイム3番手での出走となった。昼下がりはあったが、気温が30度を超え、強い日差しの照る中での競技であった。

序盤、レースはハイペースで始まり、200m通過時にすでに先頭集団は4人、高石は2番手となった。その後すぐに、集団は3人となり、1000mの通過は3'22"7。1100m通過後、高石は先頭に踊り出て、1500m付近で、付いてきた東学大の選手を置き去りにし、完全に独走状態となった。このとき少しペースが落ち、1000m～2000mのラップを3'31"1で通過したが、ラストはしっかりとラップをあげて、2位に15秒程差をつけた、10'17"39の1位でゴール。8点獲得。見事優勝を飾った。

レース展開としては、前半から前に付き、後半は他選手を寄せ付けない圧巻の走りを見せたが、記録はP.B.に惜しくも届かず今一つとなった。しかし、今回は気温が高く、競る相手のいない状況で記録を狙うのは難しかっ

たと推察される。一方で、今後の七大戦では熾烈な展開が予想されるが、最近の試合結果、また、まだ練習期間が残されていることを考慮すれば、順位、記録共に、さらなる活躍が期待される。

### 15:45 男子4×400mR タイムレース決勝

2組6レーンに伊藤(3年)-岩崎(2年)-近藤(2年)-松田(3年)の走順での出場。このオーダーは来年の関東インカレを見据えたもので、4年生は出場しない。またその中で、東工大、一橋大に勝つことを目標としたメンバーである。国公立戦は予選なしの2組タイムレースで行われる。同じ組には1つ内側の5レーンに目標の東工大、もう1つ内側に東京学芸大がおり、東大としては東工大に勝ち、2着以上を狙いたいところ。

気温は30度を超え、風はホームストレートで少し追い風が吹いているというコンディション。1走の伊藤はホームストレートに入るまで好走を見せ、1つ外側のレーンの東京外語大と差をつけたが、ラスト100mで疲労が見えたか、追い付かれ、学芸大の後にほぼ同時にバトンをつなぐ。2走岩崎は落ち着いた走り。序盤に学芸大に離され、200m地点で東工大に抜かれるが、ラスト100mに余裕を残しており、学芸大との差を縮め、東工大よりわずかに先行してバトンは次の走者へ。3走近藤は前半でとばし、学芸大においつき、すぐ後について走る。しかし、200mを超えたカーブで東工大に抜かれ、ホームストレートでも伸ばしきれず、バトンを渡す。4走松田は、学芸大、東工大を追いかけるが、その日すでに400mH、110mHを走った疲労が残るのか、追いつくことができずに組3着でフィニッシュ。

結果は、東工大が失格となり、東大は3'23"27で総合4位で5点獲得。気温が高く、体力を奪われるコンディションの中、それぞれが個人の種目も出場した上でのマイルであった。今年の関東インカレの決勝進出ラインが3'15をきるタイムであったことを考えると、より一層のレベルアップがもとめられる。

#### ◎フィールド種目

### 9:30 男子三段跳 決勝

平井(3年)、毛利(4年)、原澤(3年)の出場。雨天が心配されたが、天候は晴れ。風は適度な追い風で、良いコン

ディションの中での競技となった。

平井は1本目、ステップでバランスを崩しそうになったが、なんとか持ちこたえ12m97だった。腰に違和感があり、本調子でない平井はこれ以上記録を伸ばすことができず、結果は12m97だった。この時風は+2.4mだった。走幅跳での挽回を誓い、ピットを後にする。毛利は1本目、持ち時間の30秒を使い切ってしまう、記録無し。緊張していた、と本人は振り返る。3本目に、13m72の好跳躍でベスト8に残ったが、これ以上記録を伸ばすことができず、結果は13m72で6位。この時風は+1.8mだった。原澤は1本目、滞空時間は短かったが、速く鋭い跳躍で13m71を記録した。その後2、3本目は、上手く助走を合わせられず、踏み切り板より手前から跳躍してしまう。5本目の跳躍は助走の調整が上手くいき、13m72に記録を伸ばした。結果は13m72で5位。この時の風は-0.7mだった。

この結果により東大は7点を獲得した。朝早くからの競技だったが、気温は30°Cを超えており、身体が暑さに慣れていないせいか、調子が上がらなかった。3人とも残念ながら14mの大台には乗らなかった。14mジャンパーが増えると、跳躍ブロック全体の士気も高まると思うので、これからの活躍に期待したい。

### 9:30 男子円盤投 決勝

良い天候のもと、男子円盤投には田口(4年)、友藤(2年)が出場した。田口は今季から円盤投を始め、友藤もこの試合で初めての円盤投出場となった。まず6投出来るであろう田口はここで記録を伸ばしてほしいところであった。

田口は1投目から31m70と良い滑り出し。軌道は理想的なものであったが円盤がブレる投擲で惜しかった。2投目回転がかりながらも低い軌道で31m67、ここで記録を伸ばそうと力んでしまったのか3投目はファール。出場経験がやり投のみの友藤はここで経験を積んでほしいところ。1投目は前から出てしまうという初心者典型的なミスをして勿体無いファール。2投目は15m40とひとまず記録を残す。3投目は投げた後踏みとどまることが出来ず、ファールとなり15m40の16位で競技を終えた。これからやり投と共に、より力を活かせる投擲が出来るとなると嬉しい。

ベストエイトに入った田口は、4、5投目共に動きが固くなってしまうとファール。6投目は最後ということで思い切った投擲が出来たが、30m25と記録は伸ばせなかった。31m70と自己記録を下回る記録ながらも4位で5点獲得と立派な戦績を残した。七大戦、京大戦では35mを超える投擲を見せて上位入賞して貰いたいところだ。

### 11:10 女子走幅跳 決勝

11時10分から競技開始になる対校女子走幅跳に東大からは内山(3年)が出場した。もうすでに気温は高く、からっとした暑さの中での試技となる。内山はすでに対校女子100m予選に出場し、自己ベストの記録で組1位の走りを見せているので、この種目でも記録に期待がかかる。内山は資格記録5m55cmを持ち、優勝候補の選手とは17cmの差であるため、1位も狙える位置にいる。

1本目は残念ながらファールに終わってしまう。しかし2本目に大学ベストに迫る5m47cmの跳躍を見せる。3本目以降は記録を伸ばすことができずに6本の跳躍を終え、結果2本目の記録のまま全体2位で6点獲得であった。

100mに加え走幅跳においても冬季に怪我に苦しみながら地道にトレーニングを続けた成果が現れているようだ。試合後内山は、スピードが出ていたのは良いがもう少し技術面での改善が求められるとしており、明確な改善点への意識のもと、さらなる成長が期待される。

### 11:10 男子走高跳 決勝

木下(4年)、赤塚(3年)、永本(1年)の出場。天候は晴れており、風もそれほどなく、気温も高いというかなり良いコンディションの中での試合となった。永本は1m70から、木下は1m85から、赤塚は1m90から試技を行う。

永本は1m70を見事1発でクリアし、1m75に挑戦する。1回目は失敗してしまっていたが、2回目で成功することができた。バーの高さは1m80に上がり、永本の1回目、かなり良い跳躍であったが、残念ながらバーは落ち、続く2回目もバーは落ちてしまった。3回目、惜しくもバーが落ちてしまい、9位で競技を終了した。1m85に木下が挑戦する。1回目の跳躍はバーに体が当たってしまい失敗。続く2回目で見事成功した。1m90にバーが

上がり、木下に加えて赤塚も挑戦する。木下は1回でクリア。続いて赤塚も1発でクリアし、2人とも次の高さへと駒を進めた。1m95、木下の1回目の試技。とても良い跳躍だったが、惜しくもバーは落ちてしまった。続いて赤塚も1m95に挑戦するが、残念ながらバーは落ちてしまった。さらに2回目の試技でも2人ともクリアできず、3回目の試技へ。木下の3回目、惜しくもバーが落ち、木下は4位で競技を終了した。一方、赤塚は3回目に見事成功することができた。2m00の1回目、バーは落ち、続く2回目も、赤塚はかなり惜しい跳躍をしたが、残念ながらバーは落ちてしまった。期待のかかる3回目、惜しくも成功することはできず、3位で競技を終了した。

赤塚、木下は目標に掲げていた2m00に惜しくもどかなかつたが、それぞれ3位、4位に入賞して、11点獲得することができた。また、永本も大学生になってからの初の試合であったが、調子よく跳べていたことは評価に値する。これからの活躍が楽しみである。

### 11:30 男子砲丸投 決勝

男子砲丸投には八木澤(4年)と中村(2年)の出場。天候は快晴で、気温も30度を超すような暑さの中、競技が行われた。八木澤は自己新となる11m台の記録に、中村は10m台の記録に期待がかかっていた。中村は自身初の、砲丸投での対抗選手としての試合であった。

中村の1投目はグライドに伸びがなく8m84であった。八木澤の1投目は、若干流れ気味のグライドからの素早い突き出しで、10m68であった。続く中村の2投目は砲丸の突き出しが改善され9m99であった。八木澤の2投目は砲丸に押されてしまった投げとなり飛距離が出ず、自らサークルの外に出てファールであった。中村の3投目はグライドに依然伸びがないものの、しっかりとタメをつくった投げとなり10m15であった。八木澤の3投目は突き出し時に体が流れず、砲丸に力がうまく伝わり11m03となり自己記録を更新した。3投終了時点で14人中、中村が8位、八木澤が4位と、ともにベストエイト入りを決めた。中村は4投目、5投目、6投目、がそれぞれ9m83、10m07、9m96と安定した投げを見せた。八木澤は4投目に3投目のスムーズさにグライドの速さが加わった投げで11m27となり更に自己記録を更



新した。5投目、6投目は10m52とファールであった。

結果、中村が8位、八木澤が3位で計7点獲得、共に期待通りの活躍となった。しかしこの記録では七大戦での高得点は望めないため、あと約2ヶ月での、更なるフォームの改善や記録の向上に期待したい。

### 13:30 男子やり投げ 決勝

やり投には石田(2年)、友藤(2年)、八木澤(4年)の3名が出場。この日は午前9時の時点で気温が25度を超え、体力が奪われる暑さのなか試合が始まった。それでも競技開始直前には上空を雲が覆い、選手にとっては絶好の天気となった。

石田は1投目から自己ベストを上回る44m30をマークし、幸先の良いスタートとなった。2投目3投目もこの勢いを保ちさらなる記録更新が期待されたが、遠くに投げたい気持ちが裏目に出て力み過ぎてしまい、それぞれ40m34、42m12にとどまった。友藤は助走を短めにとり正確性重視で投擲を試みた。だが3投とも槍が高く上がりず26m30、23m54、23m31にとどまり、ベストを大きく下回ってしまった。八木澤の1投目は左に大きく逸れて赤旗が上がった。2投目は1投目と同様、左に逸れたものの幸運にも風に押し戻され43m98をマークした。残る3投目で思い通りの投擲を見せたかったが、今度はやり先が上がってしまい2投目を下回る41m05で競技を終えた。

3人とも入賞はできず他の投擲種目と比べると若干物足りない印象は否めなかった。とはいえ石田が9位、八木澤が10位と、シーズン序盤としてはそれなりの健闘も見せた。次の四大戦、七大戦では好成績が期待できそうだ。

### 13:40 男子棒高跳 決勝

戸部(4年)、片渕(3年)、三宅(3年)の出場。かなり気温が高かったが、天候は晴れており、コンディションの良い試合となった。片渕は2m50から、戸部は3m20から、三宅は4m70から試技を行う。

2m50の1回目、2回目とも片渕はクリアできなかったが、3回目の試技で見事成功することができた。

バーの高さは2m60に上がった。2m60の1回目、体はかなり浮いてはいるもののクリアできず、続く2回目も失敗となってしまった。3回目の挑戦、惜しくも成功ならず、片渕は6位で競技を終了した。バーの高さが3m20に上がり、戸部の順番が回ってきた。戸部は見事1回でクリアでき、次の高さの3m30をパスし、3m40に挑戦する。3m40も1回で成功し、続く3m50をパスした。バーの高さが3m60に上がり、1回目の挑戦ではクリアできず、続く2回目も失敗になってしまったが、3回目で見事クリアすることができた。3m70の1回目、うまく踏切が決まらず、2回目もクリアできなかったが、3回目に見事成功することができ、自己ベストを更新することができた。続いて3m80に挑戦したが、3回とも残念ながらクリアできず、戸部は5位で競技を終了した。4m70にバーが上がり、三宅が挑戦する。1回目の試技はタイミングが合わなかったが、2回目で見事成功した。続く4m80をパスし、4m90に挑戦する。見事1回でクリアすることができた。バーの高さは5m00に上がり、応援席も盛り上がる。1回目、2回目ともに残念ながら成功できなかったが、高まる緊張感の中、3回目で見事クリアでき、大会新記録を樹立した。バーの高さは5m11に上がり、3回挑戦したが、惜しくもクリアできず、1位で競技を終了した。

この種目では計14点の獲得となった。気温が高い中での試合であったが、3人とも調子が良さそうに感じられた。今後の成長・活躍が楽しみである。

### 14:00 男子走幅跳 決勝

午後2時から行われる対抗男子走幅跳に東大からは、平井(3年)、藤原(3年)、金井(2年)の3名が出場する。天気は快晴で気温は33℃と高くカラッとした暑さの中で試技は行われる。練習跳躍では金井は少ない本数でまとめ、平井が多めに跳び調整をはかる。藤原は練習から大きい跳躍を見せ記録に期待がされる。

1本目の跳躍では金井は5m99cm、平井は6m21cm、藤原は6m45cmを跳ぶ。全員記録が残り、次からは記録を狙った跳躍が期待される。2本目の跳躍では金井は記録を伸ばし6m05cm、平井は足が合わずにファールとな

り、藤原は少し噛み合わなかったようで6m32cmの跳躍を見せる。3本目、金井は大きく記録を伸ばし6m20cm、平井と藤原はファールとなってしまった。ここまでの結果から、藤原が9位、平井が12位、金井が13位で、エイトの進出ラインは6m47cmであったため惜しくも3人とも進出することはできなかった。

3人にとっては目標としていた記録が出せず、納得のいく結果ではなかったと思われるが、今回の結果から改善点を見つけて次に繋げることが期待される。

### 3. 選手の言葉

#### 短距離2年 岩崎誠倫 (400m, 4×400mR)

今回、対校400m、4×400mRに出場させていただきました、短距離2年の岩崎です。マイルメンバーとしては対校戦に何度か出場させていただきましたが、個人種目では今回初めて対校選手に選んでいただきました。今大会の目標は、「50"0を出し、決勝進出、得点を取り対校戦の勝利に貢献する」ということでした。

予選のときは少し緊張していましたが、スタート前に応援席などから名前を呼んでもらいテンションが上がってきました。レース展開としては前半から積極的に飛ばしましたが、バックストレートの向かい風で力を少し使いすぎたこともあり最後の直線で少し失速してしまいました。結果としては自己記録となる50"83でプラスの2番目で決勝に進出することができ、決勝では少しタイムを落としましたが、7位で2点を獲得できました。続くマイルリレーは初体験となる1日で3本目の400mとなりましたが、大きな応援のおかげもあり走りきることができました。

自分自身収穫の多い試合にできましたが、タイム面での目標は達成できず、自分の実力不足を痛感しております。今後の対校戦でもさらに活躍していけるよう一層実力を伸ばしていきます。今後とも応援よろしくお願ひします。

#### 中距離3年 小野康介 (800m)

今回、男子対校800mに出場させて頂いた、中距離3

年の小野康介です。この国公立戦には、順位とタイムとで2つの目標を掲げて臨みました。順位での目標は、持ちタイムの近い東工大の選手の2人に勝ちきること、タイムでは1'55"00を切り、ホクレンディスタンスチャレンジへの出場を決めることでした。これらの目標を達成するために、ある程度の余裕を持って予選を通過し、決勝でしっかりと勝負をするという事を意識して臨みました。

予選では、プラン通り、東工大の選手についていき、ある程度の余裕を持って2着で通過することが出来ました。肝心の決勝では、東工大の3選手がタイムを狙いに行くために序盤からハイペースで走るということが事前に分かっていたため、自分もそれに着いていき、その上で順位もタイムも狙う事を考えました。ただ、実際のレースは、想定よりも1~2秒ほど先頭の通過が遅かったため、500mを過ぎたあたりから自分が先頭に出ました。そのまま逃げ切れれば良かったのですが、700m付近で東工大の選手に1人抜かれてしまい、その後も残り3m付近のところで同大学の選手に2人抜かれ、結果的に4位となってしまいました。2位、3位との差が共に0"10秒ほどで、自分の勝負弱さを痛感させられるレースとなってしまいました。タイムも1分56秒台で、暑い中で一日2本走ったタイムにしては悪くはなかったものの、こちら目標を達成することが出来ませんでした。

今回のレースでの反省を活かし、ラストスパートの強化と、自力の底上げを行い、七大戦では活躍できるよう頑張りたいと思います。

#### 長距離4年 松本郁也 (5000m)

対校男子5000mに出場いたしました、長距離2年の松本です。今回がトラック種目での初対校レースでした。僕の資格記録は出場選手中12位でしたが、8位入賞で得点しチームを盛り上げることを目標としていました。

当日はかなり暑く、暑さに苦手意識の無い僕にとってはチャンスだと思いました。レースはスローペースで始まりしばらく大きな集団で進みました。この時は前方で良い位置どりができ、落ち着いて走っていました。

3000m手前から先頭のペースが一気にあがり集団が8人に絞られて最後は7人でラスト1週の戦いとなりました。

た。ここで前5人のペースアップについていくことができずでしたがゴール直前で何とか1人を抜いて5位でゴールできました。

初めての対校戦で格上相手に競り勝って得点することができて楽しかったです。しかしラスト1周で上位4人と競り合えるほど余裕が残せなかったことはまだまだ力不足であると感じました。前半シーズンの最大の目標は七大戦5000m入賞なのでここからもう数段階のレベルアップをしたいと思います。

### 跳躍3年 内山咲良 (走高跳)

今回、100mと走幅跳に出場した跳躍三年の内山です。今回の大会は、怪我で走れなかった冬を越えて、完全復活したことを確かめられるような記録を出したいと思って臨みました。

100mは、予選からタイムを狙うつもりで走りました。腕振りを変えたこともあって、従来より後半のスピードの低下が抑えられるようになった感覚があり、結果、自己ベストを更新できました。走れないなりにできることをやったり、練習の方針などを考え直してきたことが出せたと思います。

逆に走幅跳では、走っていた割に記録が低調に終わってしまいました。この大会に向けて完全に合わせられたわけではなかったですが、もう少し跳べたのではないかなと思うと後悔が残ります。踏切や助走に改善の余地はいくらでもあるので、ここから技術面の見直しをして七大戦までには自己ベストを出せるよう精進したいと思います。応援、サポート、ありがとうございました。

### 投擲4年 八木澤光大 (砲丸投)

男子対校砲丸投に出場させて頂いた八木澤です。関カレ後から投げる時の意識を変えて練習しており、慣れていないながらもその投げの意識で臨む初めての試合でした。

試合当日は1,2投目である程度の記録を残し、3,4投目でベストを更新することができました。5,6投目は思いっきりいこうと思って試技を行った結果、フォームが崩れて記録を伸ばすことができなかつたのは悔しいですが、

いい試合展開が出来たかなとは思っています。

ベストを更新することはできましたが、まだまだ七大で得点できるようなレベル感ではありません。七大で点を獲るには、あと30~40cmほどは最低必要になってくると考えています。しかし一方で、自分の中でそのくらいは七大までに伸ばせるという自信もあります。

まずは今回のベストをさらに四大で更新できるように練習を積んでいきます。そして七大では、得点・表彰台といったところを狙っていきたいです。今後ともご声援のほどよろしくお願いします。

## 4. 試合結果

### 第65回東京地区国公立大学対校陸上競技大会

#### 男子100m

##### 予選(3組2着+2)

##### 1組(+1.4)

5 岸田 祐馬 東大 11"29

##### 2組(+2.5)

2 木崎 健太 東大 11"06

##### 4組(+0.2)

3 阿久津 大貴 東大 10"77

##### 決勝(-0.1)

1 森山 史孝 電通大 10"82

2 浅沼 優斗 一橋大 10"84

3 増田 健吾 東学大 10"98

4 恒松 玲央 一橋大 10"98

5 阿久津 大貴 東大 11"05

6 高島 良純 電通大 11"06

7 尾川 拓巳 東工大 11"14

8 天野 皓平 東工大 11"19

#### 男子200m

##### 予選(2組3着+2)

##### 1組(+0.1)

2 小嶋 健太郎 東大 22"21

**2組(+1.2)**

3 伊藤 康裕 東大 22"68

**3組(+1.0)**

5 近藤 哲太 東大 22"70

**決勝(+0.7)**

1 狩野 遼太郎 東学大 21"48

2 真田 知幸 東工大 21"81

3 中野 紘史郎 東学大 21"82

4 小嶋 健太郎 東大 21"84

5 内田 将太 東学大 22"01

6 田中 宏樹 電通大 22"32

7 尾川 拓巳 東工大 22"51

8 横山 毅仁 東工大 22"73

**男子 400m****予選(3組 2着+2)****1組**

3 岩崎 誠倫 東大 50"83

**2組**

3 坂口 諒 東大 50"25

**3組**

5 柏木 龍太 東大 51"63

**決勝**

1 池内 祐貴 東学大 48"01

2 荒井 友太 東学大 48"91

3 前田 理貴 東農工大 49"06

4 高橋 知也 東工大 49"46

5 坂口 諒 東大 50"36

6 濱道 健 東学大 50"49

7 岩崎 誠倫 東大 51"15

8 村上 陽哉 東工大 51"53

**男子 800m****予選(3組 2着+2)****1組**

3 八ツ本 真司 東大 2'02"55

**2組**

4 伊藤 龍一郎 東大 2'02"42

**3組**

2 小野 康介 東大 1'59"92

**決勝**

1 河合 正貴 東工大 1'56"15

2 土田 周治 東工大 1'56"59

3 橋岡 大亮 東工大 1'56"66

4 小野 康介 東大 1'56"71

5 清崎 佑 一橋大 1'59"07

6 福澤 元己 一橋大 2'02"17

7 中島 福尚 東学大 2'02"74

8 田中 洋輔 一橋大 2'04"87

**男子 1500m****決勝**

1 近藤 秀一 東大 3'54"19

2 河合 正貴 東工大 3'54"20

3 中島 福尚 東学大 4'04"39

4 箱崎 喜郎 東工大 4'05"82

5 栗田 寛樹 一橋大 4'06"06

6 山田 晴斗 首都大 4'06"92

7 山岸 主暉 首都大 4'07"97

8 高橋 巧 首都大 4'08"24

10 油井 星羅 東大 4'09"46

13 榊村 浩行 東大 4'12"70

**男子 5000m 決勝**

1 塩田 匠 東工大 15'32"65

2 増田 慶太郎 首都大 15'32"67

3 井上 暁人 東工大 15'33"74

4 入野 翔太 東学大 15'34"18

5	松本 郁也	東大	15'36"87
6	多田 駿介	東工大	15'36"92
7	高橋 巧	首都大	15'37"58
8	栗山 一輝	東大	15'46"07
15	遠藤 正陽	東大	16'21"73

## 男子 110mH タイムレース決勝

1	永島 唯哉	東工大	14"51(+1.2)
2	佐々木 嵩	東学大	14"53(+1.2)
3	前三盛 喬貴	東学大	14"82(+1.2)
4	滝口 康成	東学大	15"48(+1.2)
5	高橋 亜稀	電通大	15"60(+1.2)
6	本田 洋平	東大	15"80(+1.6)
7	横田 有真	東工大	15"81(+1.6)
8	阿部 和也	東工大	15"91(+1.6)
9	松田 光陽	東大	16"17(+1.6)

## 男子 400mH タイムレース決勝

1	武田 嵩史	首都大	53"10
2	遠藤 幹康	東学大	53"22
3	江頭 佑紀	東学大	55"38
4	松田 光陽	東大	55"66
5	池野 和	一橋大	56"30
6	高橋 亜稀	電通大	57"10
7	横田 有真	東工大	57"13
8	鎌戸 隆行	東工大	59"29

## 男子 5000mW 決勝

1	上田 俊希	東学大	21'09"79
2	青山 福泉	東学大	21'12"72
3	河野 樹	一橋大	21'38"96
4	福井 隆真	一橋大	22'07"49
5	保田 亜久利	東大	25'05"47
6	久保田 哲矢	東工大	25'14"53
7	松原 亘希	東大	26'11"35
	根津 駿介	東大	DQ

## 男子 4×100mR 決勝

1	東工大	天野—永島—真田—妻木	41"30
2	一橋大	朝田—恒松—浅沼—小口	41"35

3	東大	竹井—阿久津—木崎—岸田	42"06
4	首都大	見留—安達—武田—瀧本	42"50
5	農工大	香坂—前田—内田—鈴木	42"94
6	東外大	佐野—中鉢—真貝—袖山	44"09
7	医歯大	横田—高野—石島—宮澤	45"44

## 男子 4×400mR タイムレース決勝

1	東学大	荒井—太田—濱道—杉山	3'18"36
2	農工大	古川—香坂—伊藤—前田	3'22"05
4	一橋大	池野—齊藤—若林—松原	3'22"77
3	東大	伊藤—岩崎—近藤—松田	3'23"27
5	首都大	見留—中村—飯森—湯浅	3'29"38
6	東外大	真貝—中鉢—榎本—大森	3'29"73
7	医歯大	高野—後藤—頓宮—権藤	3'38"57

## 男子走幅跳 決勝

1	外池 康裕	首都大	7m14(+1.1)
2	高島 良純	電通大	7m07(+0.1)
3	荒谷 亘彦	東学大	7m06(+1.8)
4	香坂 俊光	農工大	6m92(+1.1)
5	阿保 朗楽	一橋大	6m84(+0.0)
6	中山 広洋	東学大	6m83(+1.1)
7	田中 瑞希	東工大	6m54(+2.5)
8	榎田 優	東工大	6m47(+1.9)
9	藤原 暉	東大	6m45(+1.7)
12	平井 智史	東大	6m21(+1.9)
13	金井 琳	東大	6m20(+0.5)

## 男子走高跳 決勝

1	小林 拓己	東工大	2m05
2	久保木 春佑	東学大	2m00
3	赤塚 智弥	東大	1m95
4	木下 秀明	東大	1m90
5	荻野 隼	電通大	1m90
6	榎永 理気	農工大	1m90
7	榎田 優	東工大	1m85
7	中山 直史	一橋大	1m85
9	永本 裕貴	東大	1m75

## 男子棒高跳 決勝

1	三宅 功朔	東大	5m00
2	荒谷 亘彦	東学大	4m70
3	東浦 広汰	首都大	4m00
4	戸部 潤一郎	東学大	3m70
5	片渕 大成	東大	2m50

## 男子三段跳 決勝

1	香坂 俊光	農工大	14m55(+1.8)
2	外池 康裕	首都大	14m12(+0.8)
3	ムーア アレクサンダー 海	東学大	13m97(+1.8)
4	田中 瑞希	東工大	13m87(+1.1)
5	原澤 龍平	東大	13m72(-0.7)
6	毛利 冬悟	東大	13m72(+1.8)
7	長田 直樹	東学大	13m68(+0.4)
8	中山 直史	一橋大	13m66(+1.2)
9	平井 智史	東大	12m97(+2.4)

## 男子砲丸投 決勝

1	栗本 恭宏	東学大	14m29
2	齋藤 真	東学大	12m43
3	八木澤 光大	東大	11m27
4	佐藤 星至	東外大	11m17
5	山下 黎	東学大	10m93
6	岡村 也寸志	電通大	10m51
7	今泉 良太	電通大	10m29
8	中村 優太	東大	10m15
	佐竹 俊哉	東大	DNS

## 男子円盤投 決勝

1	岡村 也寸志	電通大	34m96
2	山下 黎	東学大	34m19
3	小濱 開	首都大	33m21
4	田口 広太郎	東大	31m70
5	佐藤 星至	東外大	31m67
6	北脇 恭介	東学大	31m37
7	小坪 聖人	東学大	29m63
8	松本 卓馬	首都大	29m03
16	友藤 彰紀	東大	15m40
	佐竹 俊哉	東大	DNS

## 男子やり投 決勝

1	田中 佑資	一橋大	58m27
2	桶川 雅毅	東学大	55m86
3	松本 卓馬	首都大	51m68
4	藤原 友弥	東学大	51m59
5	岡村 也寸志	電通大	47m60
6	辻 智史	一橋大	46m74
7	福井 義光	東工大	46m68
8	野中 慎太	首都大	46m50
10	石田 駿平	東大	44m30
11	八木澤 光大	東大	43m98
	中村 優太	東大	DNS

## 総合得点

1位:	東京学芸大学	182点
2位:	東京工業大学	113.5点
3位:	東京大学	102点
4位:	一橋大学	69.5点
5位:	首都大学東京	66点
6位:	東京電気通信大学	34点

## 女子100m

## 予選(2組3着+2)

1組(+1.6)		
2	内山 咲良	東大 12"64

## 決勝(-1.7)

1	西川 眞生	首都大	12"45
2	児島 里菜	東学大	12"65
3	内山 咲良	東大	12"79
4	常盤 千尋	東農工大	12"86
5	鈴木茉生子	首都大	13"04
6	成田 真美	東外大	13"13
7	木原 葉子	東工大	13"17
8	赤川 絵理	東農工大	13"57

## 女子400m 決勝

1	平原 杏華	東学大	58"53
2	高石 涼香	東大	59"50

3	小川 紗瑛	東学大	60"65
4	小林 紗佳	東外大	62"64
5	木原 葉子	東工大	62"84
6	常盤 千尋	東農工大	64"16
7	三田 優子	首都大	66"97
8	船木佐紀野	東外大	67"04

**女子 3000m 決勝**

1	高石 涼香	東大	10'17"39
2	石川 優鈴	首都大	10'33"01
3	原 舞奈	東学大	10'41"29
4	諸富 愛奈	東学大	11'02"24
5	多田 光里	東農工大	11'04"80
6	上田菜々子	東工大	11'26"00
7	丸山 智子	お茶大	11'35"42
8	中原 穂波	東外大	11'46"99
	藤原 ゆか	東大	DNS

**女子走幅跳決勝**

1	藤野 茜	東学大	5m73(+1.9)
2	内山 咲良	東大	5m47(+1.8)
3	鈴木 亜梨紗	首都大	5m34(+0.1)
4	田中 亜季	東学大	5m31(-0.2)
5	角田 綾音	海洋大	4m79(+2.9)
6	小越 友季	医歯大	4m50(+1.0)

**総合得点**

1位:	東京学芸大学	104点
2位:	大学外国語東京	45点
3位:	首都大学	36点
4位:	東京大学	27点
5位:	東京農工大学	18点
6位:	東京工業大学	10点

**5. 自己記録更新者一覧****6/2.3 第3回国土舘大学競技会**

200m	岩崎誠倫(2年)	22"69(+1.5)
1500m	松本郁也(3年)	4'07"57
5000m	岩崎瞭介(4年)	15'36"49

5000m	油井星羅(4年)	16'04"77
10000m	古賀淳平(3年)	33'47"88

**6/9 第66回東京地区国公立大学対校陸上競技大会**

100m	岸田祐馬(2年)	11"29(+1.4)
100m	杉本恭一(4年)	11"97(+0.6)
100m	内山咲良(3年)	12"64(+1.6)
200m	小嶋健太郎(4年)	21"84(+0.7)
200m	近藤哲太(2年)	22"70(+1.0)
400m	坂口諒(4年)	50"25
400m	岩崎誠倫(2年)	50"83
800m	小川大智(1年)	2'03"19
800m	松原新(3年)	2'05"11
800m	今枝颯一(1年)	2'07"39
5000mW	松原亘希(1年)	26'11"37
棒高跳	戸部潤一郎(4年)	3m70
砲丸投	八木澤光大(4年)	11m27
砲丸投	中村優太(2年)	10m15 (初出場)
円盤投	友藤彰紀(2年)	15m40 (初出場)
やり投	石田駿平(2年)	44m30

**6. 2018年度 部内五傑**

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

**男子 100m**

1	井上昂(2年)	10"77(+1.0)	5.6
2	阿久津大貴(3年)	10"90(+0.7)	5.6
3	村井輝(3年)	10"96(-0.7)	5.24
4	星野祐輝(1年)	11"27(+0.7)	6.9
5	伊藤康裕(3年)	11"28(+0.2)	5.5

**男子 200m**

1	小嶋健太郎(4年)	21"84(+0.7)	6.9
2	井上昂(2年)	21"90(+1.4)	5.6
3	伊藤康裕(3年)	22"68(+1.2)	6.9
4	岩崎誠倫(2年)	22"69(+1.5)	6.3
5	近藤哲太(2年)	22"70(+1.0)	6.9

**男子 400m**

1 小嶋健太郎(4年)	50"20	4.30
2 坂口諒(4年)	50"25	6.9
3 伊藤康裕(3年)	50"64	5.5
4 村井輝(3年)	50"66	5.2
5 岩崎誠倫(2年)	50"83	6.9

**男子 800m**

1 坂口諒(4年)	1'55"12	4.21
2 小野康介(3年)	1'55"60	4.21
3 近藤秀一(4年)	1'56"56	3.17
4 伊藤龍一郎(4年)	1'58"81	3.17
5 八ツ本真司(3年)	2'01"01	5.12

**男子 1500m**

1 近藤秀一(4年)	3'54"19	6.9
2 油井星羅(4年)	4'07"50	3.18
3 榊村浩行(2年)	4'07"57	5.12
4 古賀淳平(3年)	4'07"96	5.12
5 栗山一輝(3年)	4'08"62	3.18

**男子 5000m**

1 近藤秀一(4年)	14'12"17	4.7
2 栗山一輝(3年)	15'26"75	6.3
3 松本郁也(2年)	15'26"77	3.31
4 阿部飛雄馬(3年)	15'27"87	4.7
5 岩崎瞭介(4年)	15'36"49	6.3

**男子 10000m**

1 近藤秀一(4年)	29'41"74	5.27
2 古賀淳平(3年)	33'47"88	6.2
3 箕輪創太(3年)	33'57"57	3.23
4 一柳里樹(3年)	36'25"14	3.23

**男子 110mH**

1 本田洋平(2年)	15"80(+1.6)	6.9
2 松田光陽(3年)	16"17(+1.6)	6.9
3 村井輝(3年)	16"44(-5.1)	5.25

**男子 400mH**

1 松田光陽(3年)	55" 66	6.9
------------	--------	-----

**男子 3000mSC**

1 栗山一輝(3年)	9'47"72	5.5
2 大庭帆貴(2年)	9'52"25	5.5
3 古賀淳平(3年)	10'04"55	3.23

**男子 5000mW**

1 千菊智也(2年)	22'53"26	6.9
2 保田亜久利(1年)	25'05"47	6.9
3 松原亘希(1年)	26'11"37	6.9

**男子 10000mW**

1 後藤潤平(3年)	43'33"98	5.26
2 堀江駿(4年)	45'19"58	5.26
3 千菊智也(2年)	45'45"95	5.26

**男子 4×100mR**

1 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-木下(4)	40"89	5.24
2 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-木下(4)	41"03	5.25
3 村井(3)-阿久津(3)-井上(2)-伊藤(3)	41"90	4.7

**男子 4×400mR**

1 伊藤(3)-岩崎(2)-近藤(2)-松田(3)	3'23"27	6.9
2 小嶋(4)-岩崎(2)-近藤(2)-伊藤(3)	3'28"37	4.7

**男子走幅跳**

1 木下秀明(4年)	7m12(-1.2)	4.7
2 栗原怜也(2年)	6m85(+1.7)	5.26
3 星野祐輝(1年)	6m75(+0.2)	6.9
4 村井輝(3年)	6m72(+3.8)	5.6
5 平井智史(3年)	6m53(-1.3)	4.7

**男子三段跳**

1 木下秀明(4年)	14m93(+0.9)	5/26
2 平木基人(4年)	14m13(+3.6)	5/26
3 原澤龍平(3年)	13m91(-0.2)	5/6
4 毛利冬悟(4年)	13m80(+1.3)	4/6
5 平井智史(3年)	13m48(+1.3)	5/6



**男子走高跳**

1 赤塚智弥(3年)	1m95	4.7
2 木下秀明(4年)	1m90	6.9
3 永本裕貴(1年)	1m75	6.9

**男子棒高跳**

1 三宅功朔(3年)	5m10	5.27
2 戸部潤一郎(4年)	3m70	6.9
3 村井輝(3年)	3m30	5.25
4 片渕大成(3年)	2m60	4.7

**砲丸投**

1 八木澤光大(4年)	11m27	6.9
2 中村優太(2年)	10m15	6.9
3 村井輝(3年)	9m42	5.25

**円盤投**

1 佐竹俊哉(4年)	33m46	5.26
2 田口広太郎(4年)	32m27	5.6
3 村井輝(3年)	21m95	5.25
4 友藤彰紀(2年)	15m40	6.9

**やり投**

1 石田駿平(2年)	44m30	6.9
2 八木澤光大(4年)	43m98	6.9
3 中村優太(2年)	41m64	4.7
4 村井輝(3年)	39m67	5.25
5 友藤彰紀(2年)	26m30	6.9

**女子 100m**

1 内山咲良(3年)	12"64(+1.6)	6.9
------------	-------------	-----

**女子 400m**

1 高石涼香(4年)	59"50	6.9
------------	-------	-----

**女子 800m**

1 高石涼香(4年)	2'10"92	5.26
------------	---------	------

**女子 1500m**

1 高石涼香(4年)	4'35"34	3.24
------------	---------	------

2 藤原ゆか(4年)	5'01"15	4.21
3 荒木玲(4年)	5'20"17	5.12

**女子 3000m**

1 高石涼香(4年)	10'17"39	6.9
2 藤原ゆか(4年)	10'37"31	5.12

**女子走幅跳**

1 内山咲良(3年)	5m53(+1.4)	5.6
------------	------------	-----

**7. 2018年度 東大記録更新者一覧**

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)

800m	高石涼香(4年)	2'10"92	4.22
------	----------	---------	------

**8. 主務より****8.1 応援OB・OG紹介**

応援OB・OG紹介

6月9日に八王子市上柚木公園陸上競技場で行われました第66回東京地区国公立大学対校陸上競技大会に際し、応援に駆けつけてくださいましたOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和54年卒 中谷敬二

平成3年卒 小野満

平成3年卒 馬場勝也

平成13年卒 岡野浩行

平成23年卒 西田昂広

平成23年卒 渡邊拓也

平成29年卒 阿部龍太郎

平成29年卒 加藤騎貴

平成29年卒 軽部智

平成29年卒 櫻井悠也

平成29年卒 箕島頌

平成30年卒 土井雅人

平成30年卒 早川航平

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、部員一同、心より御礼申し上げます。

部便り主任 大島知之  
(Mail: uttfbdyri2017@gmail.com)

## 8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

6.15(金)～6.17(日)	個人選手権@平塚
6.30(土)	OBOG 戦
7.8(土)	四大戦@大井
7.28(土)～7.29(日)	七大戦@札幌厚別公園
8.26(日)	一橋戦@駒場
9.6(木)～9.9(日)	日本 I.C. @等々力
9.24(月祝)	京大戦@山城
10.13(土)	箱根駅伝予選会@立川

## 8.3 連絡先

連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji\_Saito@suntory.co.jp

学生主務：原島敏知

〒167-0054 東京都杉並区松庵 2-9-16

TEL : 090-8848-7525

Mail : shumu@utf.org

学生主務補：荒木玲

Mail : utf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

学生主務 原島敏知

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の大島までお送り下さい。